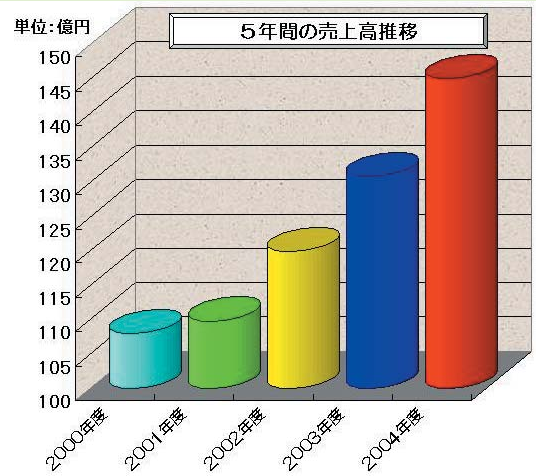


環境のあゆみ 2005

会社概要

創 業 昭和33年12月6日
 設 立 昭和36年9月20日
 資 本 金 9,850万円
 従 業 員 数 290名(2005年4月1日現在)
 事 業 内 容 コーヒーフレッシュ、シロップ、美と健康飲料、
 および洋生菓子等の食品製造販売
 関 連 会 社 株式会社メロディアンメンテ



沿 革

昭和33年12月 大阪府八尾市に日興乳業創業
 昭和36年 9月 日興乳業株式会社を資本金100万円で法人設立
 昭和49年 9月 資本金2,000万円に増資
 昭和54年 5月 東京営業所開設(現:東日本事業所)
 昭和55年 6月 広島営業所・福岡営業所(現:九州営業所)開設
 昭和61年11月 三重上野工場建設 敷地面積1万坪 40億円投資
 平成 元年 3月 高松営業所開設(現:四国営業所)
 6月 メロディアン株式会社に社名変更
 平成 2年 4月 国際花と緑の博覧会「MELODIAN LAND」出展
 平成 3年 1月 環境対策委員会を発足
 平成 4年 4月 『環境対策委員会のあゆみ』(現:環境のあゆみ)を発刊
 10月 株式会社メロディアンメンテ設立
 11月 『日本高山植物保護協会(JAFPA)』へ法人入会と関西支部設立に協力
 12月 資本金9,800万円に増資、
 平成 5年 3月 高山植物保護キャンペーン『高山植物いろいろプレゼント』を実施
 社用車のディーゼルエンジン車からガソリンエンジン車への全面切替を決定(NOx対策)
 5月 長野県白馬に保養所完成
 平成 6年 6月 三重上野工場排水処理設備の増設
 平成 7年 5月 当社社員より『日本高山植物保護協会(JAFPA)』の理事へ就任
 平成 8年 5月 三重上野工場へ高温度焼却炉を設置(ダイオキシン対策)
 平成10年 3月 社用車のガソリンエンジン車輻への全面切替完了と低公害車導入の決定
 12月 三重上野工場がISO9002の認証を取得
 平成12年 1月 ISO14001を全社一斉認証取得
 平成13年 4月 近畿事業所・名古屋営業所(現:中部営業所)開設
 10月 認証取得範囲を企画開発部門まで拡大しISO9001へ更新
 11月 三重上野工場の焼却炉運転の全面停止(平成14年3月撤去)
 平成14年 1月 三重上野工場から埋め立て処分場へ直接排出される廃棄物の撲滅達成
 2月 三重上野工場排水処理施設へ膜濾過設備を導入
 12月 三重上野工場にてHACCP認証取得
 平成16年 4月 岡山営業所開設

【事業所一覧】

本 社	〒581-0833	大阪府八尾市旭ヶ丘1丁目33番地	TEL: 0729-99-3250 (代表)
東日本事業所	〒151-0053	東京都渋谷区代々木4-29-4(西新宿ミノシマビル3F)	TEL: 03-5371-3637 (代表)
近畿事業所	〒532-0003	大阪市淀川区宮原5-1-18(新大阪サンアールセンタービル10F)	TEL: 06-6150-3277 (代表)
中部営業所	〒450-0002	名古屋市中村区名駅4-2-7(丸森パークビル5F)	TEL: 052-587-5150
岡山営業所	〒700-0907	岡山県岡山市下石井1-1-3(日本生命岡山第2ビル6階)	TEL: 086-235-3826
広島営業所	〒730-0014	広島市中区上幟町11-46(エクセレント上幟202号)	TEL: 082-227-5313
四国営業所	〒760-0018	高松市天神前10-12(香川天神前ビル3F-6号)	TEL: 087-834-6712
九州営業所	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南1-5-18(サウス・ワン1F)	TEL: 092-474-4227
三重工場	〒518-1151	三重県伊賀市白檜2816番地6	TEL: 0595-20-2000 (代表)

(旧:三重上野工場) 2004(平成16)年11月の市町村合併に伴い名称変更を実施しております。

ごあいさつ

私たちメロディアン株式会社および株式会社メロディアンメンテ（以下、メロディアングループ）は、豊かな食文化の創造をめざすとともに、『信頼される人間になろう』『信頼される商品を作ろう』『信頼される企業になろう』を社是に掲げて真実と信頼の企業活動に努力しております。

製品の安心・安全はもとより、企業市民として日々の企業活動を通じて環境へ与える負荷を軽減すべく設立した環境対策委員会も今年で14年目を迎えますが、設立当初より『小さな事でも出来ることを確実に実施していく。』をモットーに、コピー用紙1枚の節減からはじめた活動を、継続しております。

環境保全への取り組みは、原材料および各資材の省資源化、環境負荷の少ない資材の使用、エネルギーの効率化、ハイブリッド車の導入など社内的なものと、全国の各事業所付近を毎月定例的に全従業員で実施するクリーンウォーキング、絶滅が懸念されている高山植物の保護を目的に活動する日本高山植物保護協会への法人加入と外部取引業者様へのご紹介などの社外的なものまで、メロディアングループとして出来ることを確実に展開して参りました。

2000年1月に全社全部門一括でISO14001の認証を取得し6年目を迎え、環境保全への取り組みの輪を少しでも広げることをめざし、『環境方針』へ外部取引先様と共に環境保全へ活動を推進する旨を明記する改訂を行いました。

昨年度より、方針としてブランド力を上げることを最大の課題とし、その為にも環境保全に全力を挙げて取り組むことが大切であると認識をして、従業員一人一人が企業活動の様々な場面で環境負荷低減に向けた努力をしておりますが、これも継続して参ります。

この『環境のあゆみ2005』は、2004年度の取り組みとその結果を掲載しております。

メロディアングループの取り組みを知って頂くと共に、今後もより一層の充実を目指したいと思っておりますので、忌憚のないご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



2005年5月

代表取締役 社長

中西 啓詞

『環境のあゆみ2005』報告にあたり

この環境レポート「環境のあゆみ」は、環境保全活動の報告を主な目的として、2002年度（平成14年度）より一般の方々へ公開しております。

今回の「環境のあゆみ2005」の報告対象期間と対象範囲は次の通りです。

【報告対象期間】

2004年度（2004年4月1日～2005年3月31日）の活動内容と結果を基本としておりますが、一部報告には2005年度の計画を含んでいます。

【報告対象範囲】

メロディアン株式会社(全事業所)と株式会社メロディアンメンテの環境保全活動

昨年5月発行の「環境のあゆみ2004」に対する貴重なご意見・ご感想をお寄せ頂きありがとうございました。

読者の皆様の貴重な声を今後も環境保全活動と報告書作成に活用させて頂きたく、今回も簡単なアンケートをご用意いたしましたので、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せ下さい。



ホームページ上でメロディアンの環境保全活動をご紹介します。

<http://www.melodian.co.jp>

（次回発行時期：2006年 春）

経営理念と環境方針

経営理念

—— 社 是 ——

1. 信頼される人間になろう。
1. 信頼される商品を作ろう。
1. 信頼される企業になろう。

—— 基本方針 ——

当社は、豊かな食文化の創造をめざし、真実と信頼の経営を展開して、顧客、取引先ならびに社員の繁栄と幸福に最大限寄与することにより、以下の5項目を基本方針とします。

- 一、信頼される商品の提供、および誠実かつ積極的な社員の人間形成を通して、企業の信頼性を向上させます。
- 一、市場環境の変化に対応した着実な規模の拡大と、経営管理システムを強化・徹底して、収益構造を強化します。
- 一、顧客第一主義にもとづいた、『おいしさはしあわせ』『美と健康』をテーマに創造性豊かな新製品の開発を目指すとともに新市場開拓をより一層推進します。
- 一、法令遵守を基本に、環境保全にも積極的に取り組み、広く社会や顧客に支持される企業づくりを目指します。
- 一、働き甲斐の創造につながる、明朗かつ風通しのよい職場環境づくりを推進します。

環境方針

1. 基本理念

当社は、高山植物保護活動をはじめとして、地球環境の保全に積極的に取り組み、社会や顧客から支持される企業作りを目指し、「物を大切に」「資源を大切に」「自然を大切に」を基本に、環境負荷の低減を図ります。

2. 基本方針

- 1) ISO14001 に基づく環境管理システムの構築を行い、全社員参加のもと、外部取引先様と共に環境保全活動を推進し、環境汚染の防止と環境負荷低減の継続的改善を図ります。
- 2) 環境関連の法規制、地域との協定などの順守と、これらの管理基準を整備し、管理状態の維持・向上を図ります。
- 3) 環境保全活動の目的・目標を定め、これを定期的に見直すと共に、その達成を図ります。
- 4) 無駄の排除・抑制及びリサイクルなどによる、資源の有効活用を図ります。
- 5) 電力・燃料など、エネルギーの効率的利用を推進し地球温暖化防止を図ります。
- 6) 従業員への教育、社内広報活動などを実施し、全ての従業員に対して、環境方針の周知及び環境に関する意識の向上を図ります。
- 7) この環境方針を社外へも公開し、達成を図ります。

平成17年2月25日

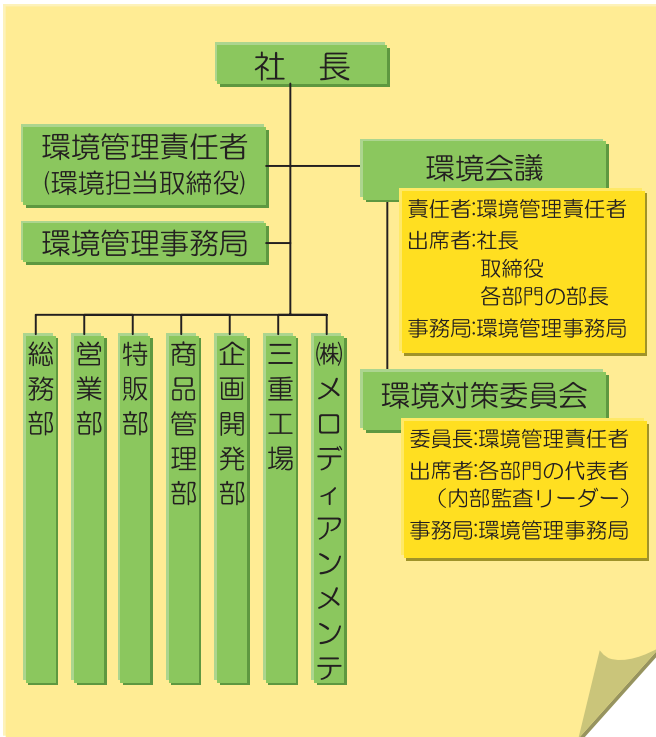
メロディアン株式会社
株式会社メロディアンメンテ

代表取締役社長 **中西 啓詞**

※『環境方針』は2基本方針 1) 項へ「外部取引先様と共に」を追加する改訂を実施致しました。

環境マネジメントシステムの概要と運用状況

環境マネジメントシステム組織図



環境管理責任者が毎月1回開催する環境会議には、各部門の責任者である部長をはじめ、各部門の担当取締役も参加し、環境目標の達成状況の確認や、環境情報の共有化を図ると共に、環境保全に関する重要事項の審議と決定を行っています。

また、環境会議の直下には環境管理責任者が委員長を勤める環境対策委員会を設置し、環境会議へ上申するための実務レベル協議や、内部監査のための打合せなどを実施します。

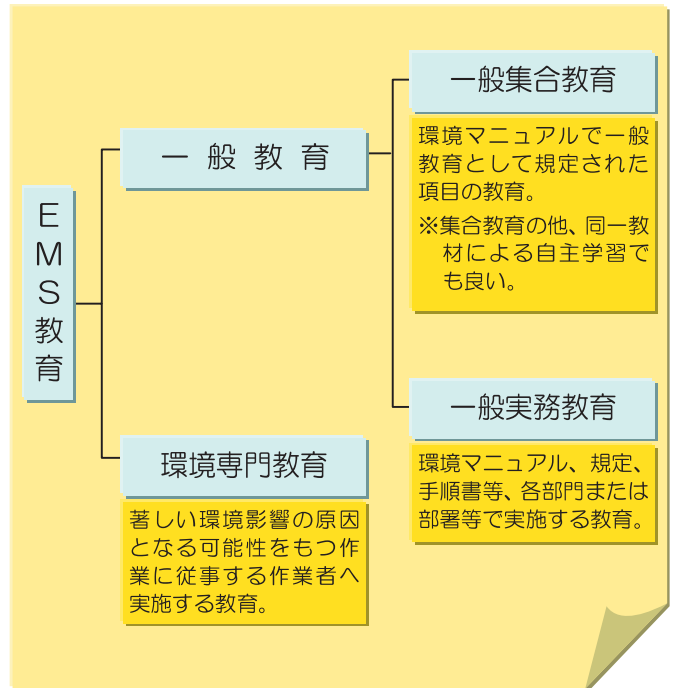
内部監査、外部審査の実施状況

1999年10月の環境マネジメントシステム構築以降、全職場を年1回以上の頻度で実施している内部監査は、社内外の専門的な教育を受けた内部監査員によって行われます。

この内部監査によって累計で250件を超える改善を実施しており、今後も継続的改善のための一つの手段として活用して参ります。

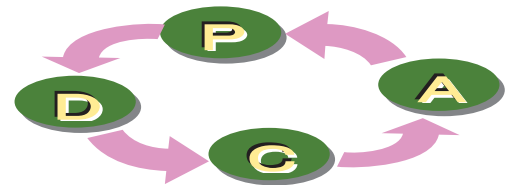
また、JAB（財団法人 日本適合性認定協会）の認定をうけた審査機関によって行われる外部審査を毎年受審することで、内部監査を含めたメロディアンの環境マネジメントシステムの有効性を客観的に評価し、システムのレベルアップに務めています。

EMS教育体制



環境マネジメントシステム（EMS）に関する教育は、年度当初に立てる年間教育計画にもとづいて全従業員を対象に実施しています。

特に一般集合教育は、EMSに関する社内ルールを中心にした基礎学習として、全従業員が毎年繰り返し教育を受けることにしています。



内部監査の様子



環境目的目標の達成状況

2004年度（2004年4月1日～2005年3月31日）の環境目標への取り組みに対する達成状況です。

環境目的	2004年度の環境目標	2004年度 目標値	取り組み結果	
本社機能を活用した環境負荷の低減	コストを見据えた、事務用品購入に関する、環境商品購入率の向上。	グリーン購入率 95.00%	グリーン購入率 97.00%	
	コストを見据えた、OA 機器・備品購入に関する環境商品購入範囲の拡大。	グリーン購入率 100.00%	グリーン購入率 98.58%	
	稟議機能を活用した廃棄死資材・廃棄原料管理の仕組みをつくる。	仕組み構築と 運用開始	仕組み構築と 運用開始	
事業活動における資源の有効活用	総務部排出の事業系一般廃棄物の削減。	現状把握	現状把握	
販売活動における資源の有効活用	ガソリン1L当たりの売上高アップ。	131,750千円 以上	181,422千円 以上	
	販促物管理精度の向上。	在庫数 前年比3%減	在庫数 前年比65%減	
	物流事故による商品焼却量の削減。	商品焼却量 4000kg	商品焼却量 12,274kg	
	受注入カミスによる追加配送におけるガソリンの無駄遣いの削減。	追加配送距離 5,000km	追加配送距離 5,601km	
	DC*欠品による緊急配送等におけるガソリンの無駄遣いの削減。	緊急配送距離 200,000km	緊急配送距離 337,200km	
	外注委託商品の廃棄死資材金額の削減。	廃棄死資材金額 500万円	廃棄死資材金額 602万円	
企画開発における環境負荷の低減	新規販促物全般に関してグリーン購入の実施。	アイテム数比率 58.0%	アイテム数比率 67.7%	
	研究開発工程から排出される一般可燃廃棄物排出量の削減。	2002年度対比 39.7%削減	2002年度対比 41.2%削減	
生産活動における資源の有効活用	包材廃棄量の削減。 (注1)	ケーブルパック	2001年度対比 68.97%	2001年度対比 56.90%
		ポーション容器	2001年度対比 79.72%	2001年度対比 75.12%
		ポーション袋	2001年度対比 42.95%	2001年度対比 37.27%
	中身入りポーション廃棄量の削減。 (注2)	2001年度対比 65.28%	2001年度対比 78.91%	
	事業系一般廃棄物排出量の削減。 (注3)	2002年度対比 18.33%削減	2002年度対比 39.20%削減	
	一次処理が非リサイクル処理の産業廃棄物の削減。	リサイクル率 1%向上	リサイクル率 27%向上	

(注1) 包材廃棄量の削減は2001年度のロス量を100とした場合の比率です。

(注2) 2001年度のロス量実績を100とした場合の比率です。

(注3) 2002年度の廃棄量実績を基準とした削減率を目標としています。

* DC：工場から出荷された商品を得意先に納めるまでの工程にある一時預かり倉庫の意味。
(DCはディストリビューションセンターの略。)

環境目的目標の達成状況

評価マーク：◎…目標達成 ○…ほぼ達成 △…もう少し

取り組み結果の評価	解説	2005年度の展開
◎	単に購入品をグリーン購入対商品へ切り替えるだけでなく、コスト比較を実施しながらの運用を実施。	日常の管理へ移行しました。
△	購入品カタログ切り替え時に、誤ってグリーン購入品非対称品を購入した事による未達成。	誤りの共有化によって再発防止を図り、日常の管理へ移行しました。
○	基礎的な仕組みづくりが完了しました。	日常の管理へ移行しました。
○	排出量は非常に微量ですが、この全員参加の取り組みによって意識向上を図ることが出来ました。	基礎データとして改善活動へ利用可能になりました。
◎	売上げの増加と営業車輛の効率的な運用によるガソリン使用量の低減で目標値以上の改善となりました。	維持管理項目として営業部門以外も含めた全社的な管理で継続します。
◎	廃棄される販促物の発生を抑えるため、在庫管理精度を向上し、在庫数の大幅な低減が出来ました。	日常の管理へ移行しました。
△	目標未達でしたが、商品輸送中の不適切な荷扱いや、荷崩れによる破損商品の発生を抑制しました。	指標を配送クレームの件数に変更し、継続して取り組んでいます。
△	受注時の作業ミスについて再発防止を図ることにより、追加配送を低減しました。	指標を受注ミス件数へ変更し、継続して取り組んでいます。
△	全国各地にあるDCの在庫管理を見直し、欠品補填の緊急配送を低減しましたが、目標未達となりました。	物流事故の新指標(配送クレーム)へ含めて継続して取り組んでいます。
△	外注製品売上げ増加に比例し、増加傾向の廃棄死資材ですが、目標未達ながら抑制することが出来ました。	日常管理への移行と販売部門での商品ロス低減活動へ展開しています。
◎	新規作成される販促物を、環境保全に配慮した設計へ転換しています。	今年度も継続して部門目標に掲げて取り組んでいます。
◎	研究開発の工程でも、廃棄物を削減する取り組みを展開しています。	その部署で独自に目標を定めて、継続的に管理しています。
◎	生産工程から排出される包装材料の廃棄物について、各工程で毎年目標を定めて削減しています。 前年に引き続き、今年も各工程で目標を達成することが出来ました。	更に高い目標を掲げて、継続的に削減を図っています。
◎		
◎		
△	生産工程での生産開始時の調整や、品種切り替えの際などに排出される廃棄物は、目標未達となりました。	前年の反省を踏まえ、今年度の削減目標を決めて取り組んでいます。
◎	三重工場の間接部門から排出される事業系の一般廃棄物は目標を超える削減が出来ました。	その部署で独自に目標を定めて、継続的に管理しています。
◎	三重工場の廃棄物の大半はリサイクルされていますが、処理工程の上流へのシフトを図っています。	継続してリサイクル処理の上流へのシフトを図っています。

三重工場の省エネ活動が表彰されました

～エネルギー管理優良表彰（中部経済産業局長賞）を受賞して～

（株）メロディアンメンテ

2005年2月16日(財)省エネルギーセンター主催の平成16年度省エネルギー表彰が名古屋中電ホールで行われました。

この賞は、優秀な省エネ改善事例や、省エネ活動が活発でエネルギー管理が優秀な工場及び個人に対して経済産業省から贈られるもので、三重工場はエネルギー管理優良工場（電気部門）として「中部経済産業局長賞」を受賞しました。

今回の受賞は、（株）メロディアンメンテ及びメロディアン（株）の従業員が、日々省エネルギー活動を推進し、エネルギー使用合理化に努力を重ねた事が認められたものです。

主な省エネ改善内容については、コンプレッサーの運転作業の見直し、コンプレッサーの圧力損失改善、工場内照明設備の照度・省エネ改善等があり 省エネ改善効果により、製造原単位で1%以上の改善効果が現れております。

今回の受賞にあたっては多くの皆様のご協力と、ご理解があつてこそ、このような結果に結びついたと感謝していると同時に、この受賞は新たな課題に向かつての出発点であり、大きな花を咲かせるために省エネルギーという小さな種をまいたにすぎない事も認識しております。

エネルギー管理優良管理表彰を受賞しての喜びと共に、これからあるべき姿のためにも省エネルギー活動の多くの知識を貪欲に吸収し、また活用していきたいと考えております。



中電ホール表彰式



〔中部経済産業局長賞〕表彰状

～蓄熱システム運転管理の改善で奨励賞受賞～

（株）メロディアンメンテ

財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター主催の「蓄熱システム運転管理等の改善事例公募」において、当社の「チルドウォーター製造設備の改善による夜間蓄熱契約の実施」の事例を応募し、奨励賞に入賞いたしました。

2005年6月9日にウエスティンナゴヤキャスルで開催された『第2回ヒートポンプ・蓄熱シンポジウム』にて、受賞全8社の中から当社を含めて3社が改善事例を報告いたしました。

蓄熱システムの改善においては、空調関係の改善が一般的ですが、当社のチルドウォーター設備については生産ラインでの冷却水製造設備であり、このようなケースでの夜間蓄熱契約は中部圏内では前例が無く、又今回事例を報告する事でこのようなシステムでも夜間蓄熱契約は可能であることが認知されるものと思われます。

実際の改善の内容においては、生産設備が増設される状況にあり、チルドウォーター設備においても増設が必要になる状況の中でチルドウォーター設備1台での電力消費量は工場全体の電力使用量の8%を占め、この設備が増設されることにより更に電力消費量が増える事が分かっていた事から夜間蓄熱契約ができる設備改造について取り組み、改善できた事例であります。

当社は第二種エネルギー管理指定工場であり、毎年前年の製造原単位1%以上の改善努力が必要であり、今後もエネルギー使用量の削減について計画的に取り組んでいきたいと考えています。

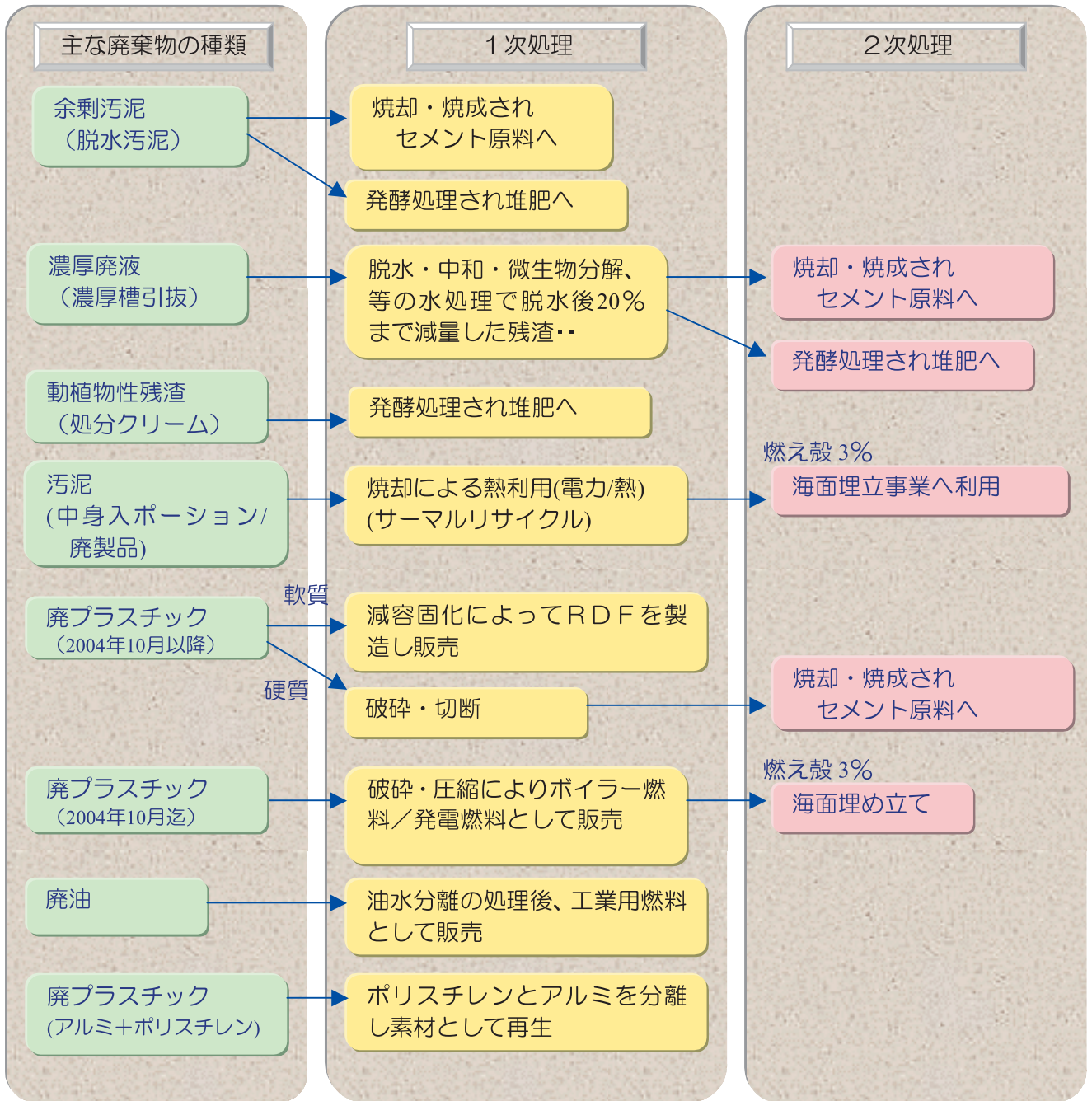


（株）メロディアンメンテ 関係者

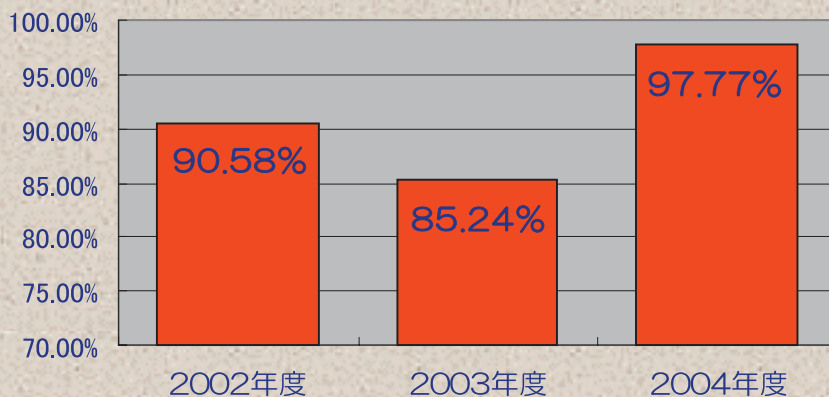
以上

環境保全活動 ～その2～

三重工場から排出される廃棄物を次のような流れでリサイクルしています



過去3年間のリサイクル率

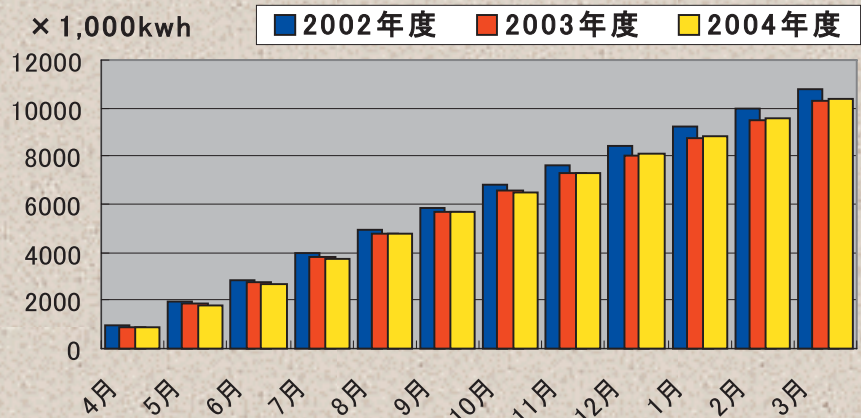


現在は、リサイクル率全体はもとより、リサイクル化の処理工程を1次処理へ多く移行する取り組みを展開しています。

環境保全活動 ～その3～

電力消費量の推移

累計の総量は前年度より若干増加しましたが、消費電力量全体の90%以上を占める三重工場では、生産量を基準にした原単位で比較すると、1%以上の省エネ改善を図ることが出来ました。



排水処理の管理状況 (三重工場)

当社、三重工場の生産ラインから洗浄などによって排出される排水の管理状況は、昨年の報告以降も、下表の通り関連する法規制の基準値を下回って問題なく推移しています。

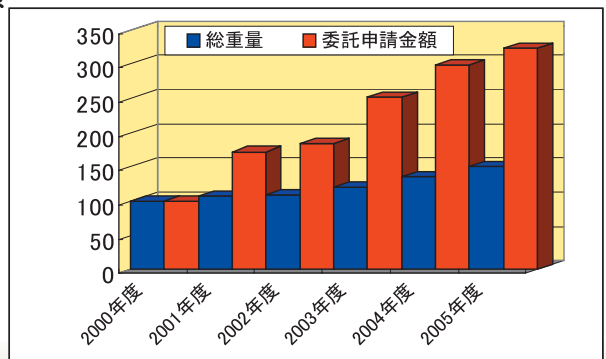
単位：mg/L (但し、水素イオン濃度は単位なし、大腸菌群数は個/ml)

測定項目 (基準値)	測定サンプル採取日(月/日)と測定結果											
	4/20	5/25	6/17	7/21	8/18	9/14	10/21	11/25	12/20	1/25	2/24	3/23
水素イオン濃度 (5.8~8.6)	6.30	7.20	6.80	7.30	7.60	7.50	7.40	7.10	7.90	7.00	7.20	7.10
生物化学的酸素要求量 (25以下)	1.00	2.00	1.00	1.00	2.00	1.00	1.00	2.00	1.00	1.00	1.00	1.00
化学的酸素要求量 (なし)	20.00	11.00	14.00	11.00	15.00	14.00	21.00	18.00	19.00	19.00	18.00	15.00
浮遊物質 (90以下)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ルルハチ抽出物質 (10以下)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50
全窒素 (120以下)	2.60	29.00	15.00	13.00	15.00	15.00	14.00	15.00	8.00	21.00	24.00	16.00
全リン (16以下)	2.20	1.60	1.10	2.00	1.90	0.74	1.30	1.10	1.00	1.30	2.90	2.00
大腸菌群数 * (3000以下)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
亜鉛 (5以下)	不定期に年1回の頻度で測定する項目としています。											0.05
基準適合判定	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合

* 大腸菌群数の(-)は測定限界未満の陰性を示す。

容器包装リサイクル法に基づく委託実績

当社は容器包装リサイクル法に定められた「特定容器利用事業者」として、法で定められた指定法人「財団法人 日本容器包装リサイクル協会」への委託を行っており、その委託量は初年度を100とすると、右のグラフのように推移しています。



高山植物保護活動の支援

★☆☆☆☆☆☆☆☆今年度の主な行事★☆☆☆☆☆☆☆☆

- 関西支部総会 & 赤坂山観察山行（2004年5月8日～9日）
- 伊吹山観察山行（2004年7月24日）
- 第6回環境学習会『乗鞍岳観察山行』（2004年7月31日～8月1日）
- 第4回法人部会総会（2004年11月16日）
- 第7回環境学習会『海から見た環境問題』（2004年11月27日）

特定非営利活動法人日本高山植物保護協会支援活動として、所属している同協会関西支部の活動に積極的に参画し、高山植物保護思想の啓蒙活動だけではなく、広く環境保護意識の啓蒙に取り組みました。《紙面の都合上一部の活動をご紹介します。》

乗鞍岳観察山行



ブロッケン現象

2004年(平成16年)7月31日～8月1日、関西支部法人部会主催の『乗鞍嶽観察山行』を実施しました。今回は、大阪・東京発とバス2台を配車し、13社(団体)72名という大規模な開催となりました。(小学生も3名参加)

前日までの迷走台風の影響で、開催も一時は危ぶまれましたが、大きな影響もなく、山頂ではブロッケン現象など貴重な体験もしました。

肝心の花は、季節のあゆみが2週間ほど早く、ハクサンイチゲなどは終わっておりましたが、ウサギギク、ヨツバシオガマ、イワギキョウ、コマクサ、イワツメクサ、コバイケソウなどを観察することができました。殆どの方が、高山植物を直に観察するのが初めてという人ばかりで、参加者はその可憐さや、美しさ、山のすがすがしさを体感し素晴らしい山行であったと口々に感激のことばを発していました。

海から見た環境問題

2004年11月27日(土)、国土交通省、大阪港振興協会の協力のもと、69名(内小学生以下12名)にて開催致しました。

国土交通省大阪港湾・空港整備事務所 企画調整課長 藤田 亨 氏による大阪港内の環境設備や港湾施設、ゴミの埋め立てに関するフェニックス計画などのあらましを、お子様にも判りやすくご講演いただきました。ご講演の後、大阪市の広報船「水都」に乗船し、ATCを出航し、フェニックス計画の埋め立て地(新島)、天保山、災害時の緊急施設(浮遊式棧橋)、海外コンテナ基地などを見学しました。

環境面を含めた大阪港と私たちの生活が深いつながりを理解でき大変有意義であったと参加者の声も多数ありました。





メロディアン株式会社



この環境レポートは古紙100%再生紙を使用し、大豆油インクで印刷しています。

2005年6月発行(VOL. 14)